Ⅲ　遊具・施設

1　遊具・施設整備の基本的考え方

「だれもが遊べる児童遊具広場」に配置される遊具は、ユニバーサルデザインに配慮した遊具である。

ユニバーサルデザインには、「Ⅱ　整備」でも解説したとおり、下記の５つの視点が必要である。

「公平」：だれもが同じように施設や設備を利用できる
「簡単」：利用者の知識や能力、状況に関係なく、容易に施設や設備を利用できる
「安全」：特別な注意を払わなくても、危険なく施設や設備を利用できる
「機能」：使い勝手よく施設や設備を利用できる
「快適」：気持ちよく施設や設備を利用できる

遊具においては、障がいの有無に関わらず、あらゆる子ども達が、容易に利用でき、多様な選択肢の中で、適切なリスクに挑戦しながら、一緒に安全、快適に楽しめる遊具である。

なお、遊具は、以下の基準に準拠することが必要である。

・都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂第２版）国土交通省
・遊具の安全に関する規準　JPFA-SP-S:2014（一社）日本公園施設業協会

さらに、遊具を快適に利用するため、園路や便益施設、管理施設等を必要に応じて効果的に整備する。

【解　説】

「公平」、「簡単」、「安全」、「機能」、「快適」というユニバーサルデザインの視点を基本とするが、遊具の場合には、特に以下の視点が必要である。

・近づきやすさ（アクセシビリティ）
（遊具までの到達はもちろん、遊具への移乗のしやすさ、利用のしやすさを含む。）

・選択のしやすさ
（多様なリスクの程度や遊具基数、種類などで選択しやすくする。）
・交流のしやすさ
（子ども同士、保護者等の交流や新たな遊びが生まれやすい遊具と空間）

さらに、「だれもが遊べる児童遊具広場」に導入する遊具は、健常な子どもも、何らかの障がい（肢体不自由、視聴覚障がい、言語障がい、発達障がいなど）のある子どもも一緒に遊べるように、また、子どもの持つ潜在的な能力を成長させるように配慮した遊具である。例えば以下のような遊具があげられる。

・車いすに乗ったまま楽しめる、あるいは容易に移乗して一緒に楽しめる遊具
（スロープや移乗しやすいデッキのついた複合遊具や滑り台、登はん遊具。パネル遊具、クッション系遊具、回転遊具、揺動遊具、砂場、水遊び場、レイズド花壇など）
・体幹の弱い子どもでも一緒に楽しめる遊具
（バケット・椅子・円盤型などのブランコ、背もたれの付いた回る遊具など）
・視聴覚等の障がいがあっても一緒に楽しめる遊具
（音や色、光を楽しむ遊具、手指で触れて楽しんだり操作したりするパネル遊具、砂場や水遊び場、香りを楽しむ花壇など）
・その他、手話や点字、ピクトサインなどでコミュニケーションを促す遊具や、一緒に、安全に楽しめるよう工夫された遊具

どのようなニーズに対応していくかについては、計画段階において、想定される利用者や関係団体等からのヒアリングやワークショップ等を通じて把握することが必要である。

遊具以外の施設では、広場出入口、外周の囲い、案内・表示、園路、ベビーカー置場、休憩所、水飲み・手洗い場、野外卓・ベンチ等の施設を必要に応じて効果的に整備する。

２　主な遊具

ユニバーサルデザインに配慮した遊具には、下表のようなものがあげられる。区分に基準はなく、遊具メーカーのカタログリストも多様である。なお、メーカーによっては、ユニバーサルデザイン遊具あるいはインクルーシブな遊具として、区分して紹介している場合がある。

【解　説】

遊具には、特に決まった分類や呼称があるわけではない。ユニバーサルデザインに配慮した遊具となると、さらに分類や呼称が複雑になる場合があるので、本ガイドラインでは、便宜上、以下の区分と順で解説する。

表Ⅲ－２－１　ユニバーサルデザインに配慮した主な遊具の区分

NO	主な遊具の区分
（1）	複合遊具（滑り台・登はん遊具・パネル遊具等の複合）
（2）	滑り台
（3）	ブランコ
（4）	揺動遊具（シーソー・スプリング系・スイング系等）
（5）	回転遊具
（6）	クッション系遊具
（7）	音を楽しむ遊具
（8）	砂場
（9）	パネル遊具（微細な動き、パズル、迷路等）
（10）	懸垂系遊具（ラダー・鉄棒等）
（11）	登はん・バランス系遊具
（12）	ネット系遊具
（13）	ロープ遊具
（14）	居心地の良い遊具（コージースポットなど）
（15）	水遊び場
（16）	自然遊び場（森の迷路・レイズド花壇・はらっぱなど）
（17）	路上絵
（18）	舗装材

注：・この遊具区分は確定的なものではなく、本ガイドラインで便宜上区分したものである。
・（18）舗装材は、遊具設置面の舗装材を主に解説。

なお、ユニバーサルデザインに配慮した遊具は、遊ぶ子どもたちの体の動きに着目して選択する場合も多い。たとえば、すべる、ゆれる、まわるなど、体の加速、減速、揺れなどの動きは、脳で知覚され、適度な刺激は脳に良い効果をもたらすと言われている。また、ふれる、かぐ、音を楽しむ、微細な動きなどは、感覚的な能力を成長させる。遊具を選択する際には下表も参考にして検討する。

障がいのある子どもの動きは、健常な子どもの動きとは異なる場合があるが、同じ遊具を利用できることが重要となる。体の動きや、楽しみ方にどのような遊具が対応するかについて、配慮が必要である。

表Ⅲ－２－２　遊具と利用者の身体の動き等

遊具の名称等 ＼ 遊具による体の動き等		すべる	ゆれる	まわる	のぼる	はねる・とぶ	ぶらさがる	ねそべる・はう	ふれる	かぐ	音を楽しむ	微細な動き	クールダウン	社会的遊び
(1)	複合遊具	○			○		○	○			○	○	○	○
(2)	滑り台	○			○			○					○	
(3)	ブランコ		○											
(4)	揺動遊具		○				○							
(5)	回転遊具		○	○										
(6)	クッション系遊具		○			○		○						
(7)	音を楽しむ遊具								○		○			
(8)	砂場							○	○					○
(9)	パネル遊具								○	○		○		○
(10)	懸垂系遊具				○		○							
(11)	登はん・ﾊﾞﾗﾝｽ系遊具		○		○	○	○							
(12)	ネット系遊具		○		○		○	○						
(13)	ロープ遊具		○	○			○							
(14)	居心地の良い遊具							○					○	○
(15)	水遊び場								○		○			○
(16)	自然遊び場					○		○	○	○			○	○
(17)	路上絵					○								

注：・「社会的遊び」は、ルールのある仲間との遊びやごっこ遊びなど。
・クールダウンは、滑り台や複合遊具のデッキ下部なども利用できる。
・舗装材は、遊具ではないので省略。ゴムチップ舗装などは、ねそべる・はうといった利用には効果的。

（1）複合遊具

1）遊具の特色

・いろいろな遊びの要素を取り入れた遊具である。のぼる、すべる、ゆれる、バランス、感覚遊びなどいくつもの遊び要素を入れることができる。
・広いスロープや移乗しやすいデッキなどの工夫で、車いす使用者でも高い位置からの眺めや滑り台を楽しむことができる。
・他の遊具よりも規模が大きくなり目立つので、広場のシンボル、ランドマーク的な役割を果たす。
・地形に傾斜がある公園では、傾斜を利用して複合遊具を設置することも可能である。高架スロープを短くできる場合もある。

2）整備の方向性

□広場の中核的な遊具として

・他の遊具に比べて規模が大きい場合が多く、利用者も多いので、広場の中核的な場所やコーナーなど動線の交錯しない場所に配置して、多くの子ども達が遊べるようにする。
・遊具の組み合わせや規模は多様である。幼児用、小学生用、小型、中型、大型など、その広場の特性や利用者に合わせて導入する。広場の規模が大きい場合は、それぞれ性格の異なる複数の複合遊具を配置することも効果的である。

□多様な遊びの選択肢

・できる限り車いすが、最高地点まで到達できるスロープ等の設置を行う。
・「のぼる」「すべる」といった遊びには、難易度に応じて選択が可能なように、階段や、複数の登はん遊具、高さや幅などの異なる滑り台の導入を行う。
・遊具の高さが高く、スロープが長くなる場合には、単調な直線形はできるだけ避け、フラットデッキ部分で向きを変える、途中にパネル遊具を配置する等、変化をつけること。

□移乗のしやすさ（移乗システム）

・車いすから、滑り台等へ移乗する際、移乗しやすいようにプラットフォームや手すりなどを整備する。また、残った車いすを介助者がスムーズに下へ降ろせるよう、アクセシブルな階段ルートを確保する。さらに、残った車いすが次に滑る子の邪魔にならない広さのデッキを確保する。
・スロープやデッキの両側には柵を設ける。手や指を挟まない柵とするほか、床の両側に立ち上がり部を設けるなどで、車いすの脱輪を防止する。

□一緒に遊ぶ

・複合遊具は、車いすや歩行器での利用や介助者の動向を想定し、広めのデッキとする。
・手動の車いすの場合 1.5m四方、電動車いすの場合 1.8m四方のスペースで、回転やすれ違いが可能である。

□床材

・床材は、滑りにくく、水はけの良い丈夫なものを使用する。また、這って移動する子どももいるため、土や砂が溜まりにくく、指の挟み込みや、ささくれが生じにくいものとする。

□安全性の確保

・遊具の出入や、滑り台からの降り口などは、見通しの確保や、利用の動線が交錯しないようにする。
・滑り台は、日差しで高温になることを軽減するため、滑降部を東向きか北向きに配置する。なお、滑り台に関する事項は次項を参照すること。
・滑り台や登はん遊具、階段の降り口付近などは転落に配慮して、ゴムチップ舗装などの衝撃吸収性の舗装にする。

□整備上の留意点

・複合遊具だけを豪華にして、他の遊具を省略化するような整備は好ましくない。広場全体の利用のバランスを考えて整備すること。

大きめの複合遊具　≒20m×15m（国営昭和記念公園）

大きめの複合遊具　≒15m×15m（都立砧公園）

大きめの複合遊具（船型遊具）　≒10m×25m（都立砧公園）

写真１　比較的大きな複合遊具　安全領域の面積が 200 ㎡を超える比較的大きな複合遊具である。車いすでも登れるスロープと車いすから容易に移乗して滑れる滑り台、登はんの遊具、フラットデッキで遊べるパネル遊具などが配置されている。

Ⅲ　遊具・施設

写真１　大きな複合遊具　高さ、種類が異なる２つの滑り台がある。雑木林内であるが、ゴムマットによる車いすルートが整備されている。（都立光が丘公園）

写真２　中くらいの複合遊具（１）　10m×10m程度。広めの滑り台が特色で、裏側には小さい滑り台もある。（江東区立豊洲公園で実験的に仮設整備された事例）

写真３　中くらいの複合遊具（２）
木調の柔らかな印象のデザイン。
（Ancient Playground
　ニューヨーク市 ）

写真 ４　小さな複合遊具　幼児用。５m×８m程度。車いす用スロープはない。右側の階段部は移乗用デッキとなっている。
（中央区立築地川公園）

写真５　幅の広いスロープの複合遊具
車いすがすれ違える幅が確保されている。パネル等で遊んでいても人や車いすが通れる広さである。（都立砧公園）

写真６　地形の傾斜を利用した複合遊具
上部と下部は、傾斜路でアクセスできる。距離が長いので、滑り台の利用は、移乗や、待ち時間などの課題がある。
（渋谷区立広町みらい公園）

（2）滑り台

1）遊具の特色

・人気の児童遊具である。滑降部には、通常の一連型をはじめ、２連・３連型、広幅員型、ベロ型、曲線型、らせん型、チューブ型、ローラー型、高側壁付型、小山型など、色々な種類がある。
・高さがあるので、シンボリックなデザインでつくると、広場の人気施設となり、広場の魅力を高める遊具となる。
・一つの階段、一人用の滑降部といったシンプルな滑り台は、ユニバーサルデザインに配慮することが難しい場合が多いので、複合遊具との組み合わせなどを検討することが望まれる。

2）整備の方向性

□多様な選択肢

・滑降部は、並んで滑れるような幅の広いものや、体幹が弱くても体を支えられるような幅の狭いもの、滞留しないように降り口が広がったものを複数設置するなど、選択ができるものとする。

□安全の確保

・滑り降りた子どもが、周辺で遊ぶ子ども達と衝突しないよう、利用動線に注意して配置する。降り口は、見通しの良い平坦な地面とする。
・日差しで高温になることを軽減するため、滑降部を東向きか北向きに配置する、または木陰に入るようにする。
・繰り返し楽しめるよう、降り口から登り口は、安全な循環ルートの確保を行う。
・高低差がある遊具なので、転落時に配慮して、ゴムチップ舗装など、衝撃吸収性の舗装とする。
・ガイドバーは、弱視や色覚障害の子どもが認識しやすい色を採用し、誤ってぶつかっても怪我をしにくい素材やデザインとする。

□移乗のしやすさ

・車いす使用者などが、スムーズに滑り台へ乗り移れるよう、出発部の手前に一段高い移乗用プラットフォームを設けるなどの配慮をすることが望まれる。

□静電気対策

・最近の補聴器や人口内耳は、本体が金属でできており、内部の機器が静電気によって故障しないよう工夫されている。そのため少しくらいの静電気は問題ないようであるが、プラスチック製の滑り台を滑る時には多くの静電気をため込むので注意を要する。但し、ことさら注意の表示をすると障がいの特別視にもなりかねない一面もあるので慎重に対応する。ニーズに応じて金属製やローラー滑り台などの整備も検討する。

□座れる場所の確保

・比較的事故の多い遊具なので、滑り台の降り口周辺に、保護者が見守れるスペースや、デッキ上に残した車いすが、下に運ばれるまで子どもが待機できる「座れる場所」の確保が望まれる。

■移乗のしやすさについて

□遊具への移乗のしやすさ

以下の施設があると車いすから遊具へ移乗しやすくなる。

・移乗のためのデッキ（メーカーにより、プラット名称が異なる場合がある）
・移乗階段・登はん遊具
・移乗支持具（手すりなど）

□車いすでの滑り台の利用のしやすさ

以下の施設があると、車いす使用者でも滑り台をより利用しやすくなる。

・滑降部滑り口に移乗しやすいデッキがある。
・残された車いすがあっても次の子が滑れるよう、車いすを留めておく広いフラットデッキがある。
・幅広い階段が滑降部近くにあり、残された車いすをすぐ降ろせる。
・残された車いすを容易に降ろせるよう、幅広い階段などがある。

写真１　移乗用プラットフォーム　トランスファーステーション、移乗用デッキなどと呼ばれることもある。（中央区立築地川公園）

写真２　隣接する滑り台と階段　車いすをすみやかに降ろせる階段があると利用しやすくなる。（都立砧公園）

写真３　滑降部の滑り口　移乗用の広いフラットデッキと一段高いデッキ。　車いすが残されても、次の子どもが滑れる。（LATCP ※Playground　ニューヨーク州）

※LATCP：LATCP は、Let All The Children Play の略。NPO の略称として使われている。本ガイドラインでは、ニューヨーク州ロングアイランドにある遊び場である.「LATCP アクセシブル・パーク＆プレイグラウンド」を「LATCP Playground」と表記。以下同じ。

写真１　タコをデザインした人気の滑り台　滑降部が広く、友達や保護者等と一緒に滑ることができる。2009 年の整備。
（練馬区立豊玉公園）

写真２　シンボリックなピラミッド型のデザインの滑り台　スロープもあり、斜面部は登はんの遊び場になっている。
（Ancient Playground　ニューヨーク市）

写真３　地形の高低差を利用した滑り台（上部と下部は園路でアクセスできる。右手の階段で車いすを降ろすことができる。
（世田谷区立二子玉川公園）

写真４　滑降部がやや狭く側壁が高めの滑り台　体幹の弱い子どもも滑ることができる。（国営昭和記念公園）

写真５　２本の滑り台　曲線のユニークなデザイン。２本あることで子どもの滞留が起きにくく、それぞれのペースで楽しめる。
（都立城北中央公園）

写真６　広さと凹凸のある滑り台　滑りの変化が楽しめる。友達や保護者等と一緒に滑ることができる。（江東区立豊洲公園に実験的に仮設された事例）

（3）ブランコ

1）遊具の特色

・複合遊具、滑り台と並んで、人気の遊具である。
・幼児用、小学生用のブランコエリアを分けて整備する場合もある。
・ニューヨーク市では、ブランコの一つに、体幹の弱い子でも乗れるシートがついていれば、「アクセシビリティ」のランクが最低から１レベル上がる、といった評価がなされている。（それだけ重要視されている遊具である。）

2）整備の方向性

□配置

・ 揺動系遊具は衝突事故も多いので、広場の周辺部に配置することが多い。なお、安全領域には外周柵を設置するが、車いすやベビーカーがアプローチしやすいようなスペースを確保することが必要である。あわせて、外周にはベンチなども設置して、保護者等が子ども達を見守れるようにすることが望まれる。
・ブランコの座面は素材により、強い日差しで高熱になることから、配置や素材に配慮することが必要である。

□多様なシート

・利用者の多様な体格や姿勢などに適応でき、友達や親子が一緒に楽しめるように、以下のような種類のブランコを複数用意することが望まれる。

バケット型ブランコ（体幹の弱い子、幼児も乗れる）
椅子型・ハーネス付ブランコ（体幹の弱い子、幼児も乗れる）
円盤型ブランコ＜鳥の巣ブランコ＞
（寝そべって乗れる、保護者と一緒に乗れる）
タイヤ型（全方向に揺れる）
二人乗りのブランコ など

□舗装

・ブランコを置く場所は平坦とし、転落にも配慮して、ゴムチップ舗装など、衝衝撃吸収性の舗装とする。

□整備上の留意点

・椅子型ブランコなどは、一般のブランコと離して設置するのではなく、多様な児童が一緒に楽しめるように並べて配置する。

①平板型（従来のタイプ）	②バケット型	③椅子型（ハーネス付）
④円盤型	⑤二人横型	⑥二人縦型（メーカーカタログ）

写真１　ブランコ各種　①は従来型。他は、ユニバーサルデザインに配慮したブランコと言える。

写真２　椅子型１座と従来の平板型２座の事例　１座だけでも、まずはできるところから行う。（練馬区立豊玉公園）

写真３　タイヤ型ブランコ　全方向に揺れ、挑戦の難易度はやや高くなる。(LATCP Playground　ニューヨーク州）

写真４　平板型２座と椅子型、円盤型の３種類のブランコ　円盤型は人気がある。（砧公園みんなの広場）

写真５　５座すべてが椅子型・ハーネス付の事例　幼児用ゾーンにあるブランコ。他にも多種のブランコがある。（Playground for All Children ニューヨーク市）

（4）揺動遊具

1）遊具の特色

・シーソー、スイング遊具、スプリング遊具などで、上下、前後、左右に揺れる動きで遊ぶ遊具である。

・スプリング遊具は、１人でも遊べる小型の遊具が多く、導入しやすい。比較的手軽に遊べる遊具である。

2）整備の方向性

□多様な選択肢

・いろいろな揺れや動きを楽しめるよう、さまざまな遊具の配置を行う。

・障がいのある子どもが一人でも自立して遊べることも大切であり、ハンドルや足置き、背もたれなどに工夫が凝らされた遊具が望まれる。

・同時に、友達や保護者と一緒に、または協力して、複数で遊べる遊具も望まれる。

□車いすからの移乗

・車いすから移乗しやすいようにする。

□配置・動線

・比較的小型の遊具が多く、狭い空間にも配置することができる。走り回る子ども達が衝突しないよう、動線や配置に注意する。

・保護者も一緒に遊べるよう、周辺に、ある程度ゆとりのある空間を確保すること。

・多様な子ども達が一緒に遊べるよう、一人用なら複数台、または複数人で遊べる遊具を設置することが望まれる。

□舗装

・転倒や落下に備えて、衝撃吸収できる舗装材とする。

□整備上の留意点

・現地での改造工事で、ユニバーサルデザインや日本の安全規準へ対応させる場合は、慎重に工事を行う。

写真１　小型の揺動遊具　一人でも自立して遊べる場合がある。
(LATCP Playground　ニューヨーク州)

写真２　輪に配置することにより友達や保護者等と顔をみあわせながら遊べる。
（都立小金井公園）

写真１
　二人乗りの揺動遊具　友達や保護者等と一緒に乗れる。

写真２　小型のシーソー遊具　友達や保護者等と、あるいは一人でも楽しめる。
（都立武蔵野中央公園）

写真３　３人乗りのスプリング遊具　友達や保護者等と一緒に乗れる。
（都立舎人公園）

写真４　４人以上で楽しめるシーソー　友達や保護者等と一緒に乗れる。（都立砧公園）

写真５　揺れる遊具　コージースペースにもなる。（都立舎人公園）

写真６　船のように揺れる遊具　複合遊具に隣接して配置されている事例。車いすでもそのまま乗れる。
（国営昭和記念公園）

（5）回転遊具

1）遊具の特色

- 水平方向に回転する動きで、遠心力を感じながら遊ぶ回転動系の遊具である。
- 早く回る遊具、ゆっくり回る遊具、手動、電動などさまざまなタイプがある。

2）整備の方向性

- 回転中の転落や子ども同士の衝突を避けるため、回転速度の調整や十分なスペースの確保が必要である。
- 一人でも楽しめる遊具もあるが、できるだけ、複数の子どもが一緒に楽しめる遊具を導入する。
- 車いすから移乗しやすい構造とする。
- できれば、車いすに乗ったまま利用できる遊具の導入を検討する。
- 地面は平坦とし、安全領域を確保する。
- 転落等に備えて、舗装は、衝撃を吸収できる舗装材とする。

写真１　回転遊具（１）　一人でも二人でも楽しめる。（メーカーカタログより）

写真２　回転遊具（２）子どもが乗ると自分の重さで輪の部分が回転する。
（江東区立豊洲公園）

写真３　回転遊具（３）　車いすからも移乗しやすく、背もたれがあるので、体幹の弱い子どもも一緒に楽しめる。
（都立砧公園）

写真４　車いすでも乗れる回転遊具　複数の人が同時に楽しめる。（海外実績）
（LATCP　Playground ニューヨーク州）

（6）クッション系遊具

1）遊具の特色

- 子どもたちに人気の遊具である。
- 遊具の反発力を利用し、子ども自身が飛び跳ねたり、寝転んで揺れを感じたりする遊具である。
- 空気膜構造の場合、常に空気を送り込む装置が必要になる。

2）整備の方向性

- 車いすから移乗しやすいように、一部をプラットフォーム状にする。
- 転倒などに備えて、遊具の周囲は衝撃吸収の舗装材で舗装する。
- はしゃぐ声が大きくなる遊具なので、できるだけ広場の端に寄せるなど配置に配慮する。民家の近くへの配置は避ける。
- 見守りベンチなどを配置する。

写真１　空気膜遊具　跳ねたり、揺れたり、寝転んで揺れを楽しんで遊ぶ。外周部を一段高くして車いすから移乗しやすくしている。（国営昭和記念公園）

写真２　ゴムチップのクッション系遊具
空気膜遊具ほど柔らかくない。かけのぼったり、這ったり、転がったりして遊ぶ。
（世田谷区立二子玉川公園）

写真３　ウレタンのクッション系遊具
飛び跳ねたり、這ったり、転がったりして遊ぶ。（ららぽーと立川）

写真４　ゴム製のトランポリン　周囲のザイル部を細かいネットにすれば車いすからも移乗しやすくなる。（メーカーカタログより）

（７）音を楽しむ遊具

１）遊具の特色

・五感（見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触る）を刺激する遊具のうち、聴覚を刺激し、楽しむ遊具である。

・鍵盤をたたいてメロディを奏でられるものや、打楽器のようなもの、人の声を聴く伝声管、足で踏んで音を出すもの、木の実などを転がして音を楽しむものなど、多様な遊具がある。

２）整備の方向性

・音が出るので、広場の中央ではなく、端やコージーゾーンから離れた場所に配置する。民家の近くへの配置は避ける。

・幼児や車いす使用者でも利用しやすいよう、操作のしやすいものとする。また、高さにも注意する。

・音を出すためにバチなどを使用するタイプは、バチの破損や紛失が起こりにくいものとする。

・聴覚過敏の子どもの負担にならないよう、音の大きさや音色にも注意する。

・音を出したり、聴いたりする際に、視覚でも楽しめるようにすると、さらに子どもたちの興味を引く。

・パネル型のものもあり、広場のどこへでも簡易に設置できるタイプもある。（「（９）パネル遊具」参照）

・複数の楽器遊具を設置する場合は、友達や保護者等と一緒に演奏できるよう配置に留意する。

写真１　楽器遊具　鍵盤を押して音を出すタイプ。高さの異なる遊具を２つ配置している。（都立砧公園）

写真２　伝声管　管を通して聞きとれる体験は、子どもにとって新鮮な感覚となる。（都立砧公園）

写真１　楽器遊具　バチを使うタイプで、合奏もできる。バチが壊れやすい点が課題となっている。（Playground for All Children ニューヨーク市）

写真２　楽器遊具　バチを使わないタイプ。（Playground for All Children　ニューヨーク市）

写真３　打楽器遊具　みんなでたたけば、盛り上がる。（Playground for All Children　ニューヨーク市）

写真４　打楽器遊具　（Joseph E. Devoy Playground ニューヨーク市）

写真５　打楽器遊具　（Joseph E. Devoy Playground ニューヨーク市）

写真６　踏むと音がでる遊具（Playground for All Children　ニューヨーク市）

写真７　伝声管　大胆かつきめこまかいデザイン。（Imagination Playground ニューヨーク市）

写真８　どんぐりころころ　どんぐりを管路に落として音を楽しむ。（どんぐりのかわりに小石も利用可）（国営昭和記念公園）

（８）砂場

１）遊具の特色

・昔から子ども達に人気の、代表的な遊具である。

・一般的な砂場は、柔らかな砂、砂面の低さ、囲い、さらに動物除けの外柵などが障害となり、車いす使用者には利用しにくい遊具のひとつであった。しかし最近は、レイズド※砂場やテーブル型の砂場も多く設置されるようになっている。
※レイズド：意図的に持ち上げたという意味。

２）整備の方向性

・車いす使用者も遊べるよう、レイズド砂場やサンドテーブルを設置する。

・サンドテーブルは、地面の砂場と離れた場所に設置すると、利用の分離を招く場合があるので、砂場に隣接させることが大切である。

・車いす使用者が車いすから降りて砂場を楽しむ場合は、移乗用のプラットフォームやフラットな出入口を整備する。

・動物の進入をふせぐために外柵を設ける場合は、車いす使用者が利用しやすいように、出入口や通路を整備する。

・夏は砂が暑くなるので、木陰や日除けなどで、直射日光を避けることが望まれる。なお、一定の日照は、砂場の消毒に効果があるといわれている。

写真１　砂場（１）　「落葉のプール」として整備された施設。土いじり、砂いじりの場として利用されている。囲い周辺の通路の高さを変えることで、利用をしやすくしている。（国営昭和記念公園）

写真２　砂場（２）　レイズド砂場があり、車いすでも利用できる。
（練馬区立豊玉公園）

写真１　レイズド砂場（１）　車いすでも楽しめるようになっている。高めのテーブルは保護者等にも利用しやすい。
（世田谷区立二子玉川公園）

写真２　レイズド砂場（２）　写真１の反対側。スツールが配置されて、座って砂いじりを楽しめる。小さい子はここに乗って楽しんでいる。（世田谷区立二子玉川公園）

写真３　デザインに工夫を凝らした砂場
中央に通路があり、通路と砂場との間にサンドテーブルが置かれている。
（Imagination　Playground
ニューヨーク市）

写真４　砂場囲いの通路側に置かれたサンドテーブル。＜左の写真の左奥＞
（Imagination　Playground
ニューヨーク市）

写真５　砂場にプレイハウスとサンドテーブル　砂場で新たな遊びや交流を生む工夫。車いす使用者の利用を想定する場合は、テーブルは縁沿いに配置すると良い。（江東区立豊洲公園）

写真６　砂場　車いすを降りて入り込む手すり付の階段がある。囲いがデッキがわりになる。（Ancient　Playground
ニューヨーク市）

（９）パネル遊具

１）遊具の特色

- 五感（見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触る）を刺激する遊具のうち、見る、聴く、触るなどの感覚的な遊びや、パズル的な遊び、あるいは指先での緻密な操作などが楽しめる遊具である。
- 色々な種類がある。
    - ピクチャー系（動物などの絵が楽しめる）
    - パズル・教材系（絵合わせ、クイズ、数字、アルファベットなど）
    - ゲーム系（指先で操作したり友達と競ったりして楽しめる）
    - サウンド系（音が楽しめる）
    - ミラー系
- 地上に設置するものや、複合遊具のスロープのフラットデッキ側面に配置するものなどがある。

２）整備の方向性

- 幼児や車いす使用者でも、パネル前に容易に行き来でき、楽な姿勢でパネル遊具を楽しめるように配置する。また、パネル間を車いすが通り抜けられるように配置する。
- 遊具メーカーにより多様なパネル遊具が開発されている。
- 複合遊具などに、組み入れることもできる。
- 地上に設置する場合は、車いす使用者でも利用しやすいよう、パネルの下にクリアランスを設ける。

写真１　パネル遊具　「迷路」という名の遊具　パネルで作られた迷路を通り、パネルで遊びながら迷路を通り抜ける。（都立砧公園）

写真１　パネル遊具　地上で楽しめるタイプ。　（Joseph E. Devoy Playground ニューヨーク市）

写真２　複合遊具のフラットデッキ上で楽しめるパネル遊具　指先の細かい動きが必要でゲーム性が高い。（Joseph E. Devoy Playground　ニューヨーク市）

写真３　デッキ上のパネル遊具　子どもの後ろを他の利用者が通過できる広さがある。（Joseph E. Devoy Playground ニューヨーク市）

写真４　デッキ上のパネル遊具　友達と一緒に楽しむことができる。（Joseph E. Devoy Playground ニューヨーク市）

写真５　音が出るパネル遊具　複合遊具に組み合わせてある事例。
（世田谷区立二子玉川公園）

写真６　ゲーム系のパネル遊具　複合遊具の中と外の両方から楽しめる。
（青梅市立若草公園）

（１０）懸垂系遊具（ラダー・鉄棒　等）

１）遊具の特色

- 公園の遊び場では、非常によくみかける代表的な遊具である。ユニバーサルデザインの対象になりにくい遊具であるが、車いすに乗ったまま利用できる高さにすることで、「地面の遊び要素」として利用できる。
- 遊具は可動部をもたず、子ども自身がぶら下がったり、移動したり、回転したりする動きで遊ぶ。
- 遊びながら腕等の筋力を高めることができる。
- 複合遊具のなかに組み込まれる場合も見られる。

２）整備の方向性

- 車いす使用者も含め、子どもが自分に合ったものを選んで遊べるように、高さを替えたり、車いすでも移動しやすいものとする。
- 利用部分は、転倒や落下に備えて、衝撃吸収材で舗装する。
- 鉄棒部分は、衝突などに備えて識別しやすい色とする。

写真１　車いすでも利用できるよう高さや幅に配慮したラダー　（Playground for All Children　ニューヨーク市）

写真２　車いすでも利用できる鉄棒（Playground for All Children　ニューヨーク市）

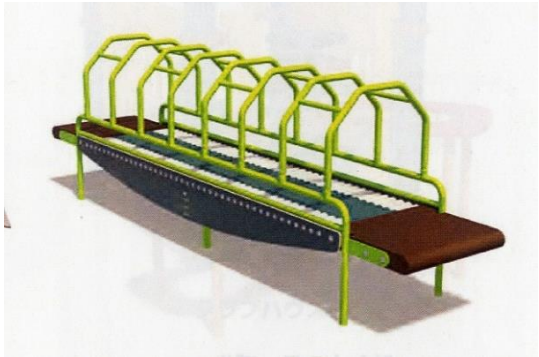

写真３　ローラーテーブル　上部はラダー、下部はローラーで滑る構造　車いすから移乗して利用できる遊具である。（メーカーカタログより）

（１１）登はん・バランス系遊具

１）遊具の特色
- 遊具は稼働部をもたず、子ども自身の登り降りや移動する動きで遊ぶ、登はん運動系、バランス運動系の遊具である。
- 子ども自身の体を支えたり、よじ登るための筋力が必要である。遊具に移乗してしまえば遊ぶことができる。但し、高難度系遊具が多く、ユニバーサルデザインに配慮した遊具は少ない。

２）整備の方向性
- 障がいのある子どもには、利用しにくい遊具なので、利用しやすい工夫をおこなうことが必要となる。
- 遊び方などを、ピクトグラムなどでわかりやすく説明する。

写真１　登はん遊具　複合遊具と組みあわされた事例。移乗用デッキもついている。（都立砧公園）

写真２　丸太渡り　バランスをとりながら丸太杭を渡っていく遊び（都立府中の森公園）

（１２）ネット系遊具

１）遊具の特色
- 目の細かいネット遊具は、移乗できれば、寝転んだり、這ったりして遊ぶことが可能である。

２）整備の方向性
- 移乗デッキや手すりなど、移乗しやすい装置などを設置する。但し、それらの装置が転落や衝突に繋がることもあるので注意が必要である。

写真３　ネット系遊具（１）　這ったまま登れる。斜面を利用する場合は、アクセシビリティに留意。（他県の事例）

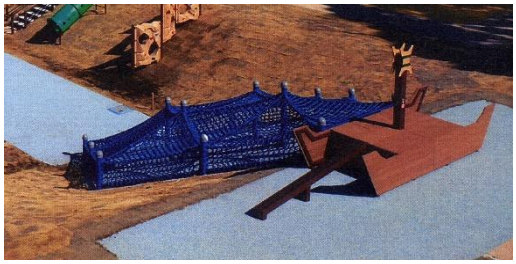

写真４　ネット系遊具（２）車いすからの移乗がしやすくなっている。（都立舎人公園）

（１３）ロープ遊具

１）遊具の特色

- 遊具の一部が水平方向に走行する動きで遊ぶ、滑走系の遊具である。
- 子どもは、走行中、可動部（ロープなど）に掴まって遊ぶため、掴まって全身を支えることができる筋力を必要とする仕様が多い。
- 滑走する遊具なので、衝突による事故などが発生するリスクが高い遊具だが、子どもたちにとっては楽しい遊びとなる。

２）整備の方向性

- ユニバーサルデザインに配慮した遊具とするには、椅子型や体幹の弱くても腕力のある子どもなら利用できるようバケット型のシートなどをつけて安全性を確保する必要がある。
- 滑走する範囲を安全領域として柵で囲むことを検討する。
- 体幹の弱い子どもの利用時には保護者のサポートを前提とする。

写真１　みんなのひろばに隣接して整備されたロープ系遊具
（都立砧公園）

写真２　ロープの端部を円盤やイス型にすると、体幹の弱い子どもも利用できる。
（メーカーカタログより）

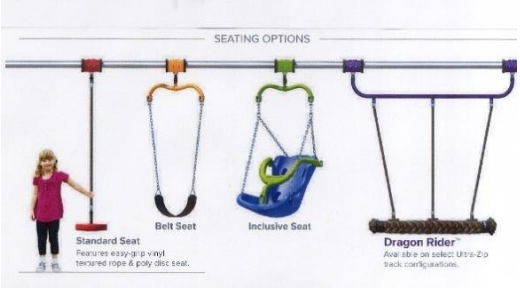

写真３　ロープの端部のいろいろ
（メーカーカタログより）

（14）居心地の良い遊具

1）遊具の特色

- 子ども達のくつろぎの場や、ごっこ遊び、コミュニケーション遊びなどに利用される遊具である。
- 時には、遊びで気分が高揚し過ぎたり、パニックになった子どもや感情を抑えられなくなった子どもの、落ち着きを取り戻す空間としても利用される。
  （クールダウンスポット、コージー※スポットなどと呼ばれることもある。）
  ※コージー：居心地が良い、くつろいだといった意味。（再掲）
- 家の形をしたものや、乗り物等を模したもの、ドーム型のものなどがある。

2）整備の方向性

- 広場の、やや奥まった場所や、静的エリアに配置する。
- 動的なゾーンでも必要になることが想定されるので、十分安全性を確認した上で、滑り台やデッキの下部などにスペースを用意しておくことも有効である。
- 樹木や草地がある、自然遊び場も居心地の良い場所になる。（「（16）自然遊び場）参照」

写真１　プレイハウス　ごっこ遊びや休息など多様な利用に対応する。クールダウンスペースとしても利用できる。
（Playground for All Children
ニューヨーク市）

写真２　滑り台の下　クールダウンの場所としても利用することができる。
（メーカーカタログより）

写真３　シェルター遊具（切りかぶ）　居心地の良い遊具となっている。車いすでも入ることができる。（都立砧公園）

写真４　ドーム型の遊具　居心地の良い遊具。ごっこ遊びなどの場ともなる。
（メーカーカタログより）

（15）水遊び場

１）遊具の特色

- じゃぶじゃぶ池のような徒渉池や流れ、噴水や噴霧、砂と一緒にあそべるどろんこ池など多様なタイプがある。
- 多くの場合、冬は利用されず、夏中心の利用となる。

２）整備の方向性

- 東京都福祉のまちづくり条例施設整備マニュアルでは、「遊戯施設」の「望ましい整備」の中で、「徒渉池は、車椅子使用者も入れるよう、深さ 30cm 以下とし、岸辺等にスロープや手すりを設ける。」としている。徒渉池をつくる場合は、この基準で整備すること。
- だれもが水に触れられるような水遊びテーブルや、車いすやベビーカーで、水路を渡れるような橋の整備を行う。
- 地表面は濡れても滑りにくい舗装材とする。

写真１　どろんこ池　究極の水と土の遊び場　手洗場や着替え場なども一緒に整備する必要がある。（国営昭和記念公園）

写真２　「こどもシャワー」どろんこ池の近くにある。着替えは隣接するトイレでできる。（国営昭和記念公園）

写真１　レイズド水遊び場　子ども達が水にさわれるように一段高い位置での水の流れとなっている。（世田谷区立二子玉川公園）

写真２　下流部の池は、一部がスロープとなっており、車いすでも入れるようになっている。（世田谷区立二子玉川公園）

写真３　水遊び場　地面から水が吹き上がる噴水タイプの水遊び場。ボタンを押すと水がでる仕組み。車いすで入ることができる。（Lawrence　Playground　ニューヨーク市）

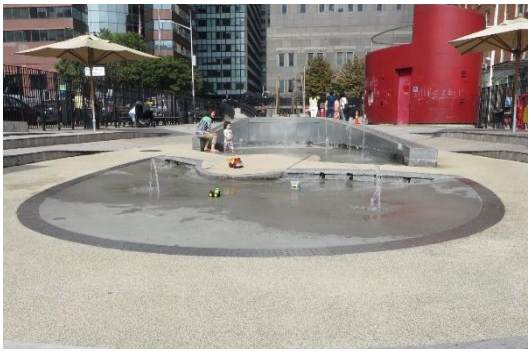

写真４　デザインに工夫を凝らした水遊び場　中央の通路は車いすでも行き来できる。（Imagination　Playground　ニューヨーク市）

写真５　車いすでも入れる浅い徒渉池（「みんなのための公園づくり（改訂版）P177 より（一社）日本公園緑地協会」

写真６　水遊びと砂遊びが一緒にできるテーブル（Beach 30th Street Playground　ニューヨーク州）

（16）自然遊び場

１）遊具の特色

- 自然とのふれあいは、障がいのある子どもたちにとっても、成長に良い影響があると言われている。植物や鳥、昆虫、落葉や木の実などとのふれあう場が、子どもにとって絶好の遊び場となる。
- 雑木林、草地広場、植込みによる迷路、レイズド花壇※、落葉プール、木の実を活用した遊具などがある。
  ※地面から立ち上げてつくられた花壇のこと。車いす使用者や高齢者などが利用しやすい。
- コージーゾーンとしても利用することができる。

２）整備の方向性

- 大きな公園の比較的大きな広場へ整備する。広場内に雑木林や草地広場などを組み込むことも検討する。
- 緑陰樹を植栽できる場合は、落葉広葉樹で、どんぐりのなる木や季節の花木などを植栽する。
- 小さな広場でも、植込みによる迷路やレイズド花壇等は整備することができる。
- 触ったときの感触が楽しめるチカラシバ、香りの楽しめるジンチョウゲ、コクチナシ、キンモクセイ、ハーブなどを植栽する。
- 車いすでも、植物などが楽しめるよう配慮する。

写真１　森の迷路　植込みで迷路をつくっている。低い目線で、植物を楽しむことができる。（国営昭和記念公園）

写真２　レイズド花壇
（世田谷区立二子玉川公園）

写真３　広場周囲に植栽されたチカラシバ
触ると猫のシッポのような感触が楽しめる。（都立砧公園）

写真４　森の近くに作られた自然遊び場
舗装路があり車いすでもアクセスできる。コージーゾーンとしても利用できる。（Joseph E. Devoy Playground ニューヨーク市）

（17）路上絵

１）　遊具の特色

- 園路や舗装広場上に描かれた動物の絵や、遊びやゲームを促す模様などがある。子ども達にとっては興味深い遊具となる。

２）整備の方向性

- 園路上の絵は、歩行での移動中に楽しめるよう、また次への遊びへうまく繋ぐように配置する。
- カラフルな色使いやわかりやすい遊び方で、子どもの興味を引く絵とする。
- また、子どもたちが遊具の順番待ちをする場合にも利用できる。

写真１　路上絵（１）　カラフルな色使い。
（Playground for All Children
ニューヨーク市）

写真２　路上絵（２）　揺れるスプリング系遊具の配置と合わせて描いている。
（LATCP Playground　ニューヨーク州）

写真３　路上絵（３）　カニ歩きや数字順に足運びを誘うような絵。
（Beach 30th　Street Playground
ニューヨーク州）

（18）舗装材

1）遊具下の舗装材の基準等

- 「都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂第２版）平成 26 年６月 国土交通省」では、遊具の設置面への配慮として、「遊具は、硬い設置面には配置せず、必要に応じて設置面への落下に対する衝撃の緩和措置についても検討する。」としている。
- 「遊具の安全に関する規準　JPFA-SP-S:2014 （一社）日本公園施設業協会」では、「設置面の衝撃吸収性能」において、「①遊具はコンクリートやアスファルトなどの硬い設置面に設置してはならない。②安全領域内の設置面は、遊具の落下高さに見合った衝撃吸収性能を有する素材を選定し、敷設することが望ましい。」としている。また、該当する設置面の衝撃吸収性能を評価する場合は、JPFA 方式で落下時の最大加速度（Gmax）および頭部損害基準値（HIC）を計測すること、各限界値は Gmax 200G 未満 HIC 1,000 以下とする、としている。
- ゴムチップやゴムマットなどは、夏場の直射日光下では表面温度が 60°C近くまで上昇するので、温度についての配慮も必要である。
- なお、衝撃吸収性能を有する舗装材は、経年による劣化が想定されるため、定期的な点検が必要となる。
- 上記の基準で整備を行う。

2）舗装材の種類

- 舗装材としては、土、砂、芝生、ウッドチップなどの自然素材を用いたものと、ゴムチップやゴムマットなどの合成材料がある。
- 材料選定に際しては、安全性、耐候性、耐久性、維持管理の難易度、衛生面などに配慮して選定する必要がある。
- （一社）日本公園施設業協会では、日本の厳しい自然環境や初期の費用対効果、およびメンテナンスコストもふまえ、通常の遊具の場合には「砂」を推奨しているが、「だれもが遊べる児童遊具広場」に設置する遊具の舗装材については、安全性や快適性、アクセシビリティも考慮して選定する。
- 舗装材の色彩については、色彩計画等に基づいて、適切な色彩を選定する。
- 遊具下以外では、場所の特性に合わせ、土や芝生なども含めて、舗装材を効果的に使い分けることが大切である。

写真 1　全面ゴムチップ舗装の事例　園路は設けず、ゴムチップの広場内に遊具を配置している。（世田谷区立二子玉川公園）

写真１　ブランコ設置面の舗装　安全領域全域にゴムチップ舗装（都立砧公園）

写真２　複合遊具設置面の舗装　安全領域全域にゴムチップ舗装　（都立砧公園）

写真３　回転遊具設置面の舗装　安全領域以上にゴムチップ舗装（都立砧公園）

写真４　滑り台設置面の舗装　安全領域にゴムチップ舗装（国営昭和記念公園）

写真５　滑り台設置面のゴムマット舗装（都立光が丘公園）

写真６　複合遊具設置面のゴムマット舗装（Playground for All Children ニューヨーク市）

写真７　段差解消にも効果的なゴムマット舗装（Playground for All Children ニューヨーク市）

３　主な施設

遊具以外に整備する施設として下表のような施設があげられる。これらの中には、「整備基準」を持つものがあるので、これを遵守する。
快適に広場を、そして遊具を利用できるよう、効果的に整備する。

【解説】
広場内には、遊具以外にも以下のような施設を整備する。

表Ⅲ－３－１　「だれもが遊べる児童遊具広場」の主な施設

NO	区分	主な施設名
（1）	広場内の施設	広場出入口
（2）		外周の囲い
（3）		広場案内・表示
（4）		広場内園路
（5）		ベビーカー置場
（6）		休憩所
（7）		水飲み・手洗場
（8）		野外卓・ベンチ
（9）		照明
（10）		その他の施設

注：・小さな公園において、特に広場の区域を定めない場合は、公園内の利用する施設すべてが、整備や改修の対象となる。（次章「Ⅳ　周辺施設」参照）
・上記施設のうち、出入口、案内・表示、園路、休憩所等の「整備基準」がある施設は、これを遵守すること。

それぞれの施設について、以下に解説する。

（1）広場出入口

□デザイン

・利用者にとってわかりやすく、興味をひき、だれでも歓迎しているというデザインとする。

□門扉

・見通しが確保できる位置に配置する。見守り効果を高めるため、門扉の箇所数は、大きな広場でも２カ所程度、小さな広場では１カ所とする。

・門扉は幼児では開けにくく、小学生高学年なら一人で開け閉め可能な門扉とする。

□色彩

・出入口であることが、わかりやすく識別できるよう、周囲と異なる色彩とする。

□案内・表示

「（３）広場案内・表示」の項参照。

写真１　外周の囲いのある広場出入口（１）小学生でも開閉できる門扉をつけ、常時は閉めた状態で管理　案内板を設置　舗装材も変えている。（都立砧公園）

写真２　外周の囲いのある広場出入口（２）２つある出入口の北側の出入口（１）とほぼ同じ構造。舗装材も同じで識別しやすい色。（都立砧公園）

写真３　ゲートのある広場出入口　職員が入退園を管理する体制をとっている広場の出入口の事例。（としまキッズパーク）

写真４　囲いのない広場出入口　特に柵も広場表示もなく、舗装材を替えるだけの境界整備。（江東区立豊洲公園）

写真１　アーケード状の施設のある出入口
利用者を歓迎する施設。（Playground for All Children ニューヨーク市）

写真２　半円形状の出入口　広い園路の先にゲートがあり、利用者を迎える。
（LATCP Playground ニューヨーク州）

（２）外周の囲い

□外周の囲いの必要性
・大きな広場を設ける場合は、急な飛び出し、迷子や連れ去り等を減らすために外周を柵等で囲むことを検討する。保護者等も、安心して遊ばせることができる。
・小さな広場や公園では、広場の開放感などを考慮して、囲いを設置しない選択もある。また、設置する場合でも高さを低くする。
・植栽や生垣で対応するなど、柔軟に対応する。
・囲いを設置する場合には、広場出入口も検討する。（「1）広場出入口」参照）
□囲いの高さ
・囲いを設ける場合は、容易に乗り越えられない高さとする。
□構造
・あまり圧迫感のない素材や構造の囲いとする。柵を設ける場合も生垣などとの組み合わせを検討する。
□色彩
・目に入りやすい施設なので、原色などの派手な色彩は避け、落ち着いた色彩、広場空間を暗い印象にしない色彩とする。

写真３　外周の囲い　白を基調とした柵で、明るい雰囲気を出している。
（都立砧公園）

写真４　囲いの柵と生垣植栽　柵だけより落ち着いた印象がある。
（都立砧公園）

写真１　柵と生垣植栽で囲った事例　柵だけより和らいだ雰囲気となる。
（豊島区立としまキッズパーク）

写真２　やや低い柵と植栽で囲った事例　低いので圧迫感は少ない。
（世田谷区立二子玉川公園）

写真３　板と鋼材を組合せた囲い　煩雑な外周景観は板柵で見せず、落ち着いた印象の園内空間を演出している。
（Imagination　Playground　ニューヨーク市）

写真４　高い柵による囲い　ニューヨーク市では、かなり高い柵で囲んでいる事例が多い。外部からの不審者の侵入防止には効果がある。（Corona Golf　Playground　ニューヨーク市）

写真５　樹木と柵の組合せ　高木と一緒に外周を整備している。（Playground for All Children　ニューヨーク市）

写真６　やや低い柵による囲い　プレイグラウンド内のバランス系複合遊具のゾーンを囲っている。（Lawrence Playground　ニューヨーク市）

（３）広場案内・表示

□表示内容

・広場出入口部には、広場の全体図、遊具の配置、利用の仕方、利用上の注意事項などを、わかりやすく示した案内板を設置する。

・広場の整備趣旨に関する表示は必要である。ただし、ことさら趣旨を強調するような表示は避ける。

□表示方法

・子どもや車いす使用者の目線で見やすい位置に設置する。

・簡潔な表現、みやすいピクトグラムなどを使用する。

・外国語表記（日本の場合は、英語、韓国語、中国語など）、点字表記、触知図、立体模型、音声案内装置、ＱＲコード、各種アプリなどの導入が望まれる。

・色彩やコントラスト、色の組合せ等に配慮する。

写真１　広場の案内板　遊具の配置や利用上の注意事項を記載している。
（都立砧公園）

写真２　注意事項の内容　（都立砧公園）

写真３　広場と周辺施設の案内板　遊具のほかトイレなど周辺施設も記載している。（国営昭和記念公園）

写真４　触地図の案内板　上部は遊具の遊び方の注意事項。下は複合遊具の形がわかる触知図となっている。
（国営昭和記念公園）

写真１　四か国語の案内板　日本語、英語、中国語、韓国語で表示されている。（都立武蔵野中央公園）

写真２　アメリカの事例　ニューヨーク市では、英語、中国語、スペイン語で利用上の注意が表示されている。(Imagination Playground ニューヨーク市）

写真３　広場の整備趣旨の案内板　「みんなのひろば」の整備趣旨を紹介している。広場近くの園路沿いにある。（都立砧公園）

この広場が目指すのは、障がいのある子もない子もみんなが楽しく遊べること。

そしてこの場所が、子ども同士はもちろん、大人のみなさんにとっても多様性を身近に感じる、新しい出会いの場になることです。

だれもがお互いを尊重しあい、いきいきと暮らす社会へ、みんなで歩いていきましょう。

写真４　アメリカの事例　LATCP Playground の案内板
（LATCP Playground ニューヨーク州）

ようこそ

Playground Rules
・遊具が濡れている時は使えません。
・走りまわったり、押したりしないこと。
・遊具は適切に使うこと。
・適切な履物をはくこと。
・大人の見守りなくしてプレイエリアは使えません。

このプレイグラウンドは、あらゆる子どもたちが遊べるよう、建設されました。

ー快適に、安全に遊んでくださいー

ーLATCPー

（4）広場内園路

□幹線園路等

・広場の出入口から主要な遊具や休憩施設をくまなく繋ぐ園路を、幹線園路として設置する。

・必要に応じて、支線園路、細園路などにわけて、幅員、舗装材等を検討する。支線園路は、幹線園路から分岐して、端の遊具へ行く園路、細園路は、さらに細かい動線を確保する園路とする。

・小さな広場では、園路を設けず、一面ゴムチップなどの舗装で、そこに遊具を配置するケースもある。

□幅員

・幹線園路の幅員は、大きな広場では車いすが余裕を持ってすれ違える 1.8m以上が望まれるが、1.5m程度でも十分利用できる幅員である。

□舗装材等

・舗装の凹凸や、目地などは、車いすやベビーカーの走行に支障をきたす場合があるので、できるだけ平らで歩行、走行しやすい舗装材とする。

・点状ブロック等を、園路の要所に敷設する。

・色彩等に配慮する。

□整備上の留意事項

・樹木の多い広場では、根上りによる舗装の凹凸が生じないように、注意が必要である。

・広場出入口などに点字案内を設けた場合、視覚障害のある利用者がその場所を認識できるよう舗装などを配慮する。

写真１　幹線園路（１）　舗装材はアスファルト。色彩は明るいグレー系。幅員は車いすがすれ違える 1.8m。（都立砧公園）

写真２　幹線園路（２）　茶系のインターロッキングブロック舗装。
（江東区立豊洲公園）

写真１　園路がない事例　小さな広場では一面土系舗装等にして、そこに遊具を配置するケースもある。
（都立木場公園）

写真２　根上りによる園路の凹凸　樹木の近くに園路を通す場合、根上りに注意する。（都内公園）

写真３　メインの園路（１）五線譜でデザインされている。（Playground for All Children　ニューヨーク市）

写真４　メインの園路（２）　コンクリート舗装で整備。LATCP Playground
ニューヨーク州）

写真５　砂地の園路　ビーチマットを活用して車いすでも通行可能となっている。
（Beach 30th Street Playground
ニューヨーク州）

（5）ベビーカー置場

□配置

・広場内へ、ベビーカーを乗入れる場合は、主要な遊具や休憩スペース周辺に、ベビーカー置場を設置するか、十分なスペースを設ける。
・小さな広場では、広場外にベビーカー置場を配置した方が効果的な広場利用ができる場合が多く、その場合は、広場外の自転車置場の活用を検討する。
・舗装材を替えたり、案内板等で、ベビーカー置場であることを伝えることを検討する。

写真１　ベビーカーが置かれている状況（都立砧公園）

（6）休憩所

□配置

・広場内の比較的見通しの良い場所に配置する。
・直射日光を遮るための屋根を設けることを検討する。
・ベンチや車いす使用者も一緒に休憩できる野外卓などを配置する。
・子どもが寝ころんだりできる縁台なども必要である。

写真２　広場中央部の休憩所　日除け、縁台、ベンチなどを配置。日除けは手動で開閉できる。（都立砧公園）

写真３　広場沿いの休憩所　木調の落ち着いた雰囲気の休憩所。テーブル、ベンチなどが配置されている。（都立武蔵野中央公園）

写真１　遊具脇の休憩所（１）　見通しの良い場所やリスクの高い遊具の近くに設置する。縁台が置かれている。（都立舎人公園）

写真２　遊具脇の休憩所（２）　ベンチが置かれている。
（都立駒沢オリンピック公園）

写真３　緑陰の休憩スペース　シートを広げ、ピクニック感覚で休憩できる。
（都立砧公園）

写真４ 休憩スペースに置かれた野外卓
車いす使用者も一緒にくつろげる野外卓が４基並んだ休憩スペース
（Playground For All Children
ニューヨーク市）

（7）水飲み・手洗場

□配置

・幹線園路沿いの利用しやすい位置に配置する。

・手洗場は、広場出入口、砂場などの、汚れやすい場所に配置する。

□整備上の留意事項

・子どもや、車いす使用者が使いやすい水飲み、手洗いとする。

・水栓器具は、レバー式や押ボタン式など、操作が容易なものとする。

・地面は、水はけが良い舗装とする。

・排水溝や側溝蓋は、車いすやベビーカーのタイヤを挟み込まないものとする。

写真１　水飲み（１）　飲み位置の高さの異なる水栓が２カ所、そのほかに手洗いがついている。（都立光が丘公園）

写真２　水飲み（２）　飲み位置の高さは１カ所だが、足台がついている。開閉しやすいレバー式。（世田谷区立二子玉川公園）

写真３　水飲み（３）　足洗場がついている水飲場。（都立駒沢オリンピック公園）

写真４　やや大きめの水飲・手洗場　足も洗うことができる。みんなのひろばの入口付近に設置されている。（都立砧公園）

写真５　手洗場　どろんこ遊びができる場所のそばにシャワーが併設されている。（国営昭和記念公園）

写真６　多機能な水飲み　上はペットボトル用、中段は人用、下は犬などのペット用。（Domino　Park　ニューヨーク市）

（8）野外卓・ベンチ

□配置等

- 休憩所や木陰、園路沿いに配置する。
- リスクの高い遊具の周囲には、保護者の見守り用のベンチを配置する。
- ベンチは、広場の大きさや利用者に合せて、適切な数と種類を配置する。
- 車いす使用者も一緒に休めるような野外卓の選定や、ベンチ脇に車いす用のスペース（コンパニオンシーティング※）を確保する。また、車いすでも走行しやすいように舗装を行う。
  ※横並びの座り方をコンパニオンシーティングと呼ぶ。
- 寝転んだりできるような縁台なども配置する。
- 花壇や砂場の縁を腰掛けやすい高さや幅にしたり、座りやすい岩や丸太を置くなどして、座れる場所を増やす工夫をする。
- 視覚障がいの子どもにも識別しやすい色彩とする。
- 園路沿いに配置する場合は、通行の妨げにならない位置とする。

写真１　野外卓　テーブルに手すりがついており、車いす使用者が近づきやすい。（都立砧公園）

写真２　縁台　寝ころんだり、オムツ替えに使用できる。（都立砧公園）

写真３　長いベンチ　左右両側から利用できる。利用区分の境界の機能をもたせることもできる。（都立砧公園）

写真４　ヒップレスト　車いすやベビーカーを押している人も使用しやすい。（都立砧公園）

写真１　園路沿いのベンチ　園路の外側に配置。車いす、ベビーカースペースも確保している。（都立夢の島公園）

写真２　ベンチ間に車いすマークを記載した事例　マークを記載する場合、障がいの強調にならないよう留意が必要。
（都立武蔵野の森公園）

写真３　野外卓　車いす使用者も一緒に集える。（Joseph E. Devoy Playground　ニューヨーク市）

写真４　ベンチ　車いす使用者も一緒に休める配置。横並びの座り方は、コンパニオンシーティングと呼ばれている。（Joseph E. Devoy Playground　ニューヨーク市）

写真５　見守りベンチ（１）回転遊具のまわりに配置。（LATCP　Playground　ニューヨーク州）

写真６　見守りベンチ（２）　ブランコの安全領域外側に配置。（LATCP　Playground ニューヨーク州）

（９）照明

□配置等

・夜間の利用を認める場合は、安全を確保できる照明設備を整備する。

・夜間利用を前提としない場合は、通常の防犯照明を設置する。

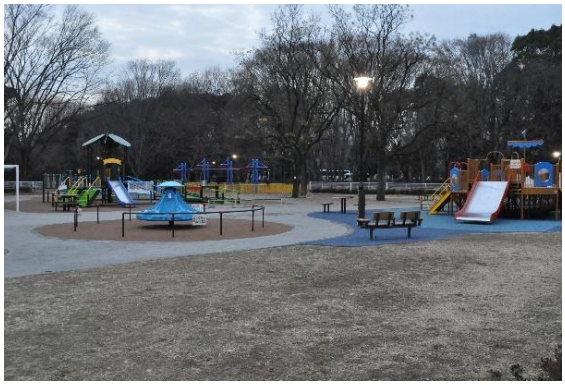

写真１　防犯照明　広場中央部に最低限の防犯照明を設置。（都立砧公園）

（１０）その他の施設

□その他の周辺施設

・放送設備、公衆電話、飲料水等の自動販売機、プレイワーカーやボランティア、NPO 等の詰所、用具入れなどを必要に応じて整備する。

・特に、広場の利用時間を設定し、門扉の施錠をする場合は、利用者に閉園時間を知らせる上で放送設備は重要な施設となる。広場内の隅々まで音声が届くように設置する必要がある。

写真１　放送設備　広場近くにあり、閉園時間を知らせる。（都立砧公園）

写真２　自動販売機（江東区立豊洲公園）